第４学年算数科学習指導案

１　単元名　式と計算のじゅんじょ

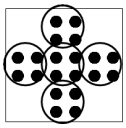
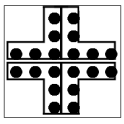
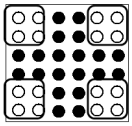
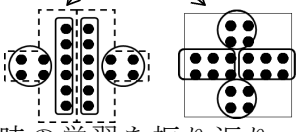
２　本時のねらい

既習の四則計算のきまりを活用しながら個数の求め方を図や式に表し、図と式を関連付けて説明することができる。

３　準備物

【教師】箱に並んでいるチョコレートを示す磁石、チョコレート20個を示したドット図、学習プリント

４　展　開

学習活動・内容（時間：分）	教師の働きかけと評価（評価方法）
１　箱に残っているチョコレートの数を求めるという問題を把握する。　(5)	○　チョコレートを食べたと想定し、四隅の4×4個を取り除く操作を見せ、後の6×6－4×4＝20の立式につながりやすくする。
残りのチョコレートの数をいろいろな方法で求めよう。	
２　まとまりを見出し、個数を求める。　(10) ・まとまりを見つけること 	○　初めに4×5＝20で求めた考えを図を用いて発表させ、まとまりを見いだすと求めやすくなるという見通しをもたせる。 ○　４以外にも５や６などのまとまりを見いだして求めている友だちの存在を知らせ、多様に式を立てることが難しい児童へのヒントとする。 ○　多様な考えを書けるように、学習プリントにドット図を４つ示しておく。 ○　机間指導で、児童がどのようなまとまりを考えているかを把握し、意図的に指名した児童にドット図にまとまりを書かせて提示させる。
３　提示された図から式を考え、説明する。　(15) ・数量関係を図から読み取り立式すること  ↓ 5×4＝20  ↓ 6×6－4×4＝20	○　提示された図を学習プリントに写し、図と式を対応させた説明を書き込ませる。 評　図を見て立式している。　（学習プリント） 評　図と式を対応させて説明を書いている。（学習プリント） ○　6×6－4×4＝20のように既習の面積の求め方を活用して全体から部分を引いて求めた考えや、２つの式を１つの式で表した考えを価値付ける。
４　式を図に表して説明する。　(10) ・式から数量関係を読み取り、図に表すこと　(4＋6)　×2　＝20 	○　(4＋6)×2＝20の式を示し、図に表すと違うまとまりが考えられる場合があることに気付かせる。 評　式を見て、図の中にまとまりを見いだして示し、説明を書いている。　（学習プリント）
５　本時の学習を振り返り、まとめを書く。　(5)	○　今日の授業で分かったこと、役に立った考え方等について振り返らせる。 ○　早く書けた児童を数名発表させて、学習内容を確認させたり、学習したよさを共有させたりする。